

ヨハネ 17 章の祈り

2008 年 12 月 7 日 アシェル・イントレーター

この大祭司としてのイエシュア(イエス)の祈りは、執り成しの祈りの頂点であり、啓示の金鉢です。多くの方はヨハネ 17 章の祈りは教会の一致のための祈りと解釈しています。確かにそれはこの祈りの一部です。しかし、この祈り全体はそれ以上のものがあります。

私たちが主にあって「一つ」となるという個所はヨハネ 17 章に5回出てきますが、イエシュアの栄光あるいは主にあって私たちが栄光を受ける個所は8回あります。ここは、教会が神の栄光に完全にあずかる祈りなのです。

ヨハネ 17 章の理解が変わることは、世界中で執り成しの祈りの突破口をもたらすでしょう。これは世界中のメシアの御体が栄光、神のご計画と聖さに入っていく祈りなのです。

結合(union)と一致(unity)の間には違いがあります。イエシュアの第一の祈りは、私たちが主と御父にあって「一つ」となることです。これは私たちが神と結合するための祈りです。もちろん、もし私たちが神と一つになるならば、私たちは互いに一つになるのです。しかし、神との結合は私たちが互いに一致することが先行します。

訳注: union と unity をランダムハウス英語辞典で引いてみると:

union: 2 つ以上の異なる要素を 1 つの組織に結合[統一]すること、あるいは組織されている状態を指す。

unity: しばしばいろんな要素からの結合の結果であるが、分割できない統一性を有していることを強調する。

もし私たちが、世界中の神の民が神の栄光の中で一つになることを思い描くならば、神の目的の理解が急激に広がります。私たちは神のご性質にあずかる者となる(Ⅱペテロ 1:4)とペテロは書いています。「私たちのうちに働く力によって、私たちの願うところ、思うところのすべてを超えて豊かに施すことのできる方に」(エペソ 3:29)とパウロは祈りました。

ヨハネ 17 章は、私たちが大宣教命令を終えることによって世がイエシュアが主であることを知る(ヨハネ 17:21、23)とあります。神を愛し、互いに愛し合いなさい(マルコ 12 章、ルカ 10 章)という二つの最も偉大なご命令を我々が成就する祈りなのです。

黙示録とエペソ書に説明されているように、これは私たちが清められたキリストの花嫁となるという祈りなのです。

イエシュアは、私たちが主の栄光を見ることができるようにと祈られました。ヨハネは**黙示録 1 章**において栄光の主という形でイエシュアを見た時、その祈りに対する答えを経験しました。神の栄光は主のご臨在と共に来る力なのです。それは**主の玉座(ダニエル 7:10)**から流れ出る炎の河のようです。それはまるで原子力による**巨大な竜巻(エゼキエル 1 章)**のようです。それはキリストの変容(**ルカ 9 章、マタイ 17 章**)が起こった山で弟子たちが見たものでした。彼らはペンテコステの朝(**使徒 2 章**)での栄光のほんの「一部」を経験したのです。

イエシュアは、世界の基が置かれる**前に**御父と栄光を共有していたと言われました。(ヨハネ 17:5) その栄光は創造の時にありました。神の栄光は宇宙を創造した力なのです。それはまるで巨大なクエーサーや、ブラックホールの反対のもの、つまり宇宙を飲み込むものではなく、はき出すものです。

その力はどれぐらいのものでしょうか。アインシュタインは、エネルギーは質量に光の速度の2乗を掛け合わせたものと同等であると証明しました($E=MC^2$)。もしすべて創造された質量をこの公式に当てはめて掛け合わせると、全宇宙を創造するのに必要な純粋なエネルギー全量が得られません。それが神の栄光の力なのです。

イスラエルの近況

カッサム弾

今年イスラエルとハマスの間で、「レギア」すなわち互いに攻撃しないという休戦期間について合意に達しました。しかし、この 11 月だけで 215 発のカッサムロケットがガザからイスラエルに向けて発射されました。(ハマスの和平合意はもうこれまでです。)

ヘブロン

木曜日の午後 2 時 30 分、イスラエル特殊警察部隊はヘブロンにある「平和」の家を家宅捜査し、すべてのユダヤ人入植者を追い出し、扉を閉じて溶接しました。作戦は暴力的な衝突があると予想されていたにもかかわらず、驚くほど効率的に、たった 36 分(!)で完了しました。しかし、ヘブロンは、イスラエル人とパレスチナ人との間や、イスラエル人社会の中、そしてメシアニック・ジューの一群の内部においても紛争が続く対象の地なのです。ヘブロンで起こった現代の出来事の一部を掲載します。

1967 年 6 月: 六日間戦争に続いてイスラエルがヘブロンを占領下に置いた。

1968 年 4 月: 宗教的な入植者が到着して過越の祭りを祝い、ユダヤ人共同体を開始した。

1968 年 10 月: パレスチナ人テロリストが手榴弾をマクペラの洞穴(アブラハムとサラが埋葬されている場所)で祈るユダヤ人入植者に向けて投げつけた。47 名が負傷した。

1980年5月:テロリストが祈りに来たユダヤ人の集団に向けて乱射。6名が犠牲に。
1988年9月:ラビ・レヴィンジャーがヘブロンを中心地区でパレスチナ人の集団に向けて乱射。一人が犠牲に。レヴィンジャーはイスラエルの裁判所で有罪を宣告された。
1994年2月:バルーク・ゴールドシュタイン博士がマクペラの洞穴に自動小銃を持って入り、そこで祈っていた29名のパレスチナ人イスラム教徒を殺害した。
2001年3月:ユダヤ人の赤子シャルヘヴェット・パスがテロリスト狙撃兵の射撃によって犠牲に。
2001年11月:テロリストが奇襲をかけ11名のイスラエル兵、警察、市民を殺害。
2007年3月:数百名のユダヤ人入植者がヘブロンのパレスチナ人近郊の境界にある「平和」の家を占拠した。

サンドラさん

先週、インド人の家政婦サンドラ・サムエルさんは2歳のモーシェ・ホルツバーグを彼の両親を殺害したテロリストたちの手から救い出しました。今週彼女は葬儀のためイスラエルに到着し、彼女の居場所はモーシェと一緒にいて、彼の面倒を見ることだと言いました。

サンドラさんはイスラエル人ジャーナリストとのインタビューで証言しました。「私はカトリックで、ユダヤ人家族と共に働くのは私にとっての贈物です。私はいかにユダヤ人が選ばれた民であるかについて、聖書の物語を聞いて成長しました。ユダヤ人を助ける人は誰であっても特別な祝福を受けると私は信じています。」

バカラット氏

エルサレム新市長であるニル・バカラット氏はイスラエルのTVのインタビューにおいて、彼自身は「世俗派」であるが、彼の祖父はルバビッチ派のチーフラビであったと言いました。ルバビッチ派のラビ(レベ)はバアル・シエム・トヴ師の直系の子孫であり、バアル・シエム・トヴ師はダビデ王の直系の子孫であると主張しています。言い換えると、バカラットはダビデ王の直系の子孫であると主張しているのです。別のインタビューで彼は、自分が「ダビデ王の足跡を辿っている」と述べました。

訳注:ルバビッチ派:18世紀ロシア(ベラルーシ、ウクライナ)で起こった敬虔主義運動「ハシディズム」、超正統派ユダヤ教徒の一派。敬虔主義の創始者はラビ(レベ)イスラエル・ベン・エリエゼル(バアル・シエム・トヴ)。インドのムンバイで襲撃された「ハバットハウス」は、この流れを汲むユダヤ教徒の集会所です。